

議会だより

研修会

北海道町村議会議員研修会

7月4日

(第一部)

慶應義塾大学教授金子勝氏の、「トランプ政権と日本経済―地域経済への影響は?」と題した講演を傾聴した。TPPを壊したトランプ大統領は窮地に落ちているので、成果を必要としているとのことであった。

そんな中日本経済は、異次元の金融緩和政策をはじめとするアベノミクスは明らかに失敗しており、デフレ経済への逆戻りが懸念される。景気回復の実感がない中、地域間の所得格差が拡大している。アベノミクスがもたらす株高や不動産価格上昇の恩恵は、大都市の一部に集中しており、大手企業の決算では多くの利益が出ているが、その利益は内部留保されており、従業員や下請け企業に落ちてはいない。



ある財政出動を続けるしかない、また第三の矢の雇用政策も進めなければならぬと述べられた。

不安定な政権の中、諸外国と交渉している。国の代表としての総理大臣は誰が出てきても他国に比べて比較的短命だ。誰もが豊かで穏やかに生きて行く為には安定政権のものと強い国としての位置づけも必要であり、その中で経済力が増していくと私は思う。

(広報特別委員会 藤井)

(第二部)

「日本政治の昨日・今日・明日」と題し、日本放送協会解説副委員長の島田敏男氏が講演をされた。

NHKの「日曜討論」で司会を務める島田氏は、安倍一強政権に至った経緯や憲法改正の実現の為に仕組み、総理在任中のタイムスケジュールの真相などを、解説者目線で分かりやすく説明された。

また、番組等で使用された「NHK世論調査」の結果を

基に、安倍内閣支持率や自民党政権支持率の低下を当時の政策や問題に当てはめながら国民と政府の隔たりについて述べた。

最後に、次期衆議院議員選挙の動向に触れ、自民党以外突出した野党が存在しない国会において、小池百合子氏の「都民ファーストの会」の国政参入と自民党支持者を上回る無党派層の取り込みが重要だと締めくくった。

(広報特別委員会 北島)



北空知議員研修会

7月20日

平成29年7月20日妹背牛町にて北空知議員研修会が開催され、1市4町52名の議員が研修を受けた。講師に北海道町村議会議長会事務局長の村川寛海氏より「求められる議会、議員活動」と題して講演された。

北海道町村議会の現状、課題について、さらに議員としての役割を他町村の色々な例をあげて説明され、非常に解り易い有意義な講演であった。

(広報特別委員会 小松)



空知町村議会議員研修会

7月25日

平成29年7月25日、沼田町において空知町村議会議員研修会が開催された。札幌大学地域共創学群法・政治学系教授浅野一弘氏より、「危機管理のまちづくり」と題して講演をいただいた。

「危機管理」という言葉から何を連想されるか。身近に

起こる危機は気象災害だけではなく、人口減少など多様な意味を含んでおり、少子高齢化が加速する中で、地方における「危機」とは何か、また、差し迫った「危機」を感じとり、迅速・的確に対応していく力と創造力を養うという内容であった。

「危機管理」とは、家計、企業あるいは行政(国家)が、難局に直面した場合の決断、指揮、命令、実行の総体を言う。

危機管理には、「予防」・「事前準備」・「応急」・「復旧」・4つの局面があり、被害を極力減らすために平常時から危機に備える「減災」という考え方が重要である。

危機は連鎖する。例えば、地震→津波→原発事故→風評→観光客の減少→景気の冷え込み→税収の低下→福祉の力→自殺者の増加といったように、危機が新たな危機を引き起こすのである。そういった局面における、T(透明性) A(説明責任) P(住民参加) E(公平性)の重要性は非常に高い。

最後に「この世で、万全の危機管理は存在しない」「明日の天気は変えられないが、

明日の危機は下げられる」と述べられ、講演を締めくくった。

今、大雨などの異常気象が日本列島に大変な災害をもたらしているだけに、今回まさにタイムリーな講演研修であった。

(広報特別委員会 佐光)



中央要望

「北空知議会議長連絡協議会中央要望」参加報告

参加議員 小松・小坂

北空知1市4町、市町各2名に事務局を加えた12名で要望活動を行った。本町から小松、小坂が参加した。

要望事項は、農業政策全般。医師の偏在と地域医療の充実。JR路線廃止関連対策を重点要望として、道内選出、衆参国会議員、農林水産省、厚生労働省、国土交通省に対し、意見交換と共に要望書を渡し、要請活動を行った。

要望に対し、一定の理解は示していただいたが、その場での具体的な応答はあまりなかった。今後も継続的活動の必要性を強く感じた。

定例会を傍聴しませんか

第3回定例会は9月12日～15日の予定です。





議員 コラム

8月上旬、近隣の議員と共に中央要望で東京に行ってきた。要望事項をまとめ関係省庁職員との意見交換、道内選出の衆参国會議員に要請する。来年度予算の積み上げ前の行動だ。

国の役人等と話すのは、議員と農民協時代を合わせると結構な回数になるが、何時も感じることもある。

一つは、こちらの話には一定の理解を示すが、大抵「しかしですね」が入ることである。そして、もう一つ。同じ要件でも話す時期だったり、同部署にもかわらず、人によってニュアンスや結果が違ったりすることだ。

普段の生活でもこういった

ことはよくあることだが、利

害が絡む要件では微妙である。

話し合う中で結果の変化は、

ある意味不謹慎であることか

もしれないが面白い。

時と場合は勿論ある。先ず

は話してみる、新たな発見が

あるかもしれない。

(小坂一行)

